

WHY
DOES AN
INVESTOR
FAIL?

なぜ投資家は 失敗するのか？

株式投資編

松下 誠

MAKOTO MATSUSHITA

感情をコントロールせよ!

《利益を生み続けていくのに一番大事なこと。》

何を買うのか、どこで売するのか、いつ利食いするのか。投資に関するすべての行動はあなたが決めること。自分を知り自分が最も信頼できるトレードルールを確立する。それが成功へのスタートなのです。

はじめに

こんにちは、松下誠です。2012年11月、当時の民主党・野田内閣の解散・総選挙に端を発し、自民党の安倍総裁による、「経済再生」を至上命題とした自民党安倍政権が発足、その政策がアベノミクスと呼ばれ、金融政策・財政政策・成長戦略が描かれ、円安・株高が始まりました。それに伴い、国内企業の収益が改善、一部の企業は過去最高利益を更新、2014年春の春闘では労働者の賃上げも伴い、消費者物価も上昇、国内株式市場に明るい兆しと希望が見られ、株価が堅調に推移しています。

2014年1月からは少額投資非課税制度（NISA）が導入され、新しく投資を始める人も増え、政府の「貯蓄から投資へ」のスローガンとともに、株式市場は拡大を始めています。しかし残念ながら、株式投資の現場では、アベノミクスで株価が上昇したから多くの投資家が利益を上げるか、NISAが始まったから新しく株式投資を始めた人が利益を上げるかという点、必ずしもそうではなく末端の投資家はいつも悩み苦しみ、資金を減らす現実があります。

これには、投資をしたその本人でないと分からない心の動きや葛藤、苦しみがあります。政策を立案・執行する官僚や政治家、株式の売買を仲介する証券会社、各種企業業績や株価動向を分析するアナリストや評論家には決して分からない、当事者の悩みや問題があるのです。株式投資に臨み、その市場から利益を上げようとする投資家は、当事者として、この悩みや問題を知った上で、それらを克服し利益を上げていかなければならないのです。

「なぜ株式投資で失敗するのか？」

この冊子では失敗の理由について、投資家の根本的な問題を取り上げ、それを解決するための方法を提案します。この冊子の内容を参考に、ご自身で投資に対する確固たる哲学や意志を持ち、自分の投資スタイルを作り上げ、安全に資金を管理しながら、株式投資で利益を上げていただければと思います。

目次

第1章	株式投資に対して無知だから失敗する	
1-1	何に対する無知なのか？	5
1-2	何を知らなければならないのか？	7
1-3	無知を解消することで何が変わるのか？	9
第2章	ビビるから失敗する	
2-1	なぜ投資家のメンタルが大切なのか？	10
2-2	平常心を保つことで何が起こるのか？	12
2-3	平常心を保つために行うこと	12
第3章	お金が減ると思っていないから失敗する	
3-1	何も知らずにお金が増えるはずがない！	15
3-2	資金管理はどのように行うのか？	17
3-3	資金管理で投資が変わる	19
第4章	なぜ値が動いたのかが分からないから失敗する	
4-1	値動きとは何か？	22
4-2	値動きの理由を学ぶ	23
4-3	値動きの理由を利益に結び付ける	25
第5章	地合いが分からないから失敗する	
5-1	地合いとは何か、どう変わっていくのか？	27
5-2	投資スタンスに合った地合いを見極める	28
5-3	地合いが良いときに買い、地合いが悪いときには買わない	30
第6章	売買の方法が分からないから失敗する	
6-1	投資の行動は誰も教えてくれない	31
6-2	行動できなければ利益は上げられない	32
6-3	トレードルールを知り、自分の売買手法を確立する	34
第7章	株を買う日はこの日！	
7-1	トレードルールを決めれば、株を買う日は決まる！	36
7-2	買う日が決まれば、毎日の作業は待つこと	37
7-3	株式投資は先の長い道のり	37

株式投資に対して 無知だから失敗する

1-1 何に対する無知なのか？

個人投資家の中には株式投資を、単に将来的な株価を予測したり当てたりする、いわゆるギャンブルのような「予測・当てもの」だと思っている人が多いようです。それゆえ、株式投資を始めるにあたり、知識や理論を習得する努力をせず、たまたま入手した材料や情報をもとに予測し、取引を始めてしまいます。これが、そもそもの間違いなのです。歴史的に見て、資産運用の世界で大成功を収めた投資家は、当てものとして資金を増やしたわけではなく、確立された投資手法や技術、大局を観る力によって資金を増やしてきたのです。

では、株式投資における個人投資家は何に対して無知なのかを確認してみましょう。そもそも株式投資とは、株式市場において投資家が何らかの銘柄の株を売買することで完結します。つまり、株式投資で知るべきことは、売買の中に表れていることになります。これを分析すると多くの個人投資家に欠落している知識は、以下の3点に集約されます。

- ① 株式市場という環境、あるいは売買対象となる企業・銘柄の知識
- ② 実際の売買方法に関する知識
- ③ 売買を行う自分自身の投資に対する考え方

第1章 株式投資に対して無知だから失敗する

この3つが、株式投資を構成する要素のすべてです。この3つの要素を一連の流れとして確認すると、次の図1のようなイメージになります。

つまり、市場を知り、売買（行動）の方法を知り、自分自身を知らなければ、株式投資で利益を上げることはできないことが分かります。

孫子の『兵法』には、こうした格言があります。

「彼を知り己を知れば百戦して^{あや}殆うからず」

「敵と味方の情勢を熟知すれば、たとえ百回戦ったとしても敗れることはない」という意味です。これを株式投資に当てはめて考えると、投資家が^{たいじ}対峙するものは市場であり、彼＝市場となります。市場のことを知り、売買（行動）の方法を知り、自分のことを知ることで、何度戦っても負けないという状態に近づけるのです。

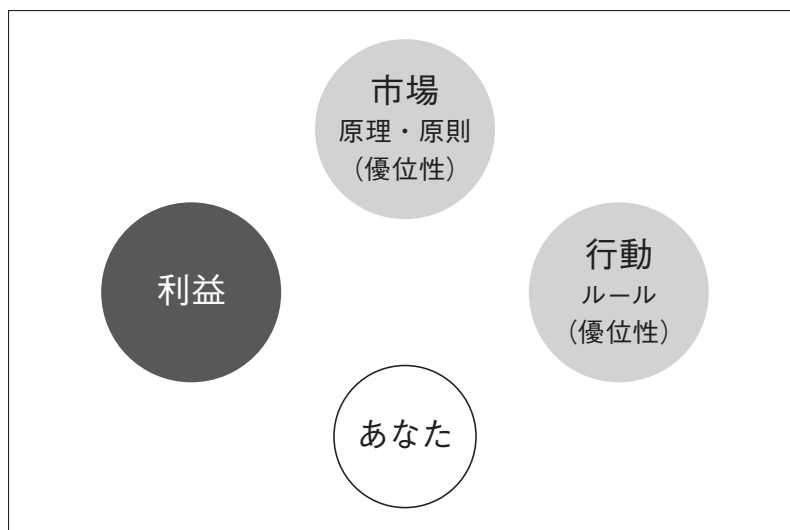


図1 株式投資で利益を上げるための流れ

第 1 章 株式投資に対して無知だから失敗する

だからこそ、私たち個人投資家も、大成功を収めた先人に倣い、知識や理論を習得し、自分の投資手法や技術を身に付けていく必要があるのです。

つまり、株式投資で失敗する投資家は、単に株式投資を予測・当てもの決めつけ、市場をも知らず、自分をも顧みず、そして売買(行動)の方法も知ることなく、失敗するべくして失敗しているのです。

1-2 何を知らなければならないのか？

この節では、前節で紹介した3つの要素について、何を知らなければならないのかを紹介していきます。

◆市場に関して

市場とは、あなたが売買を行う対象であり、株価(企業・銘柄)と言い換えることができます。つまり、これから株式投資で利益を上げようとするのであれば、その売買対象である企業・銘柄の株価の価格変動について知らなければなりません。価格変動を知るためには、2つの分析手法を身に付け、株価の特徴や性質を知る必要があります。2つの分析手法とは、「ファンダメンタル分析」と「テクニカル分析」です。

ファンダメンタル分析とは、価格変動に影響を及ぼす基礎的(ファンダメンタル)な要因を検討し、分析する手法です。テクニカル分析とは、価格変動を継時的な変化としてチャートと呼ばれるグラフに書き起こしたり、指数化したりするなどして、過去のパターンや特徴を分析し、将来的な価格変動を予測する手法です。

第 1 章 株式投資に対して無知だから失敗する

◆売買方法に関して

株式投資とは、株の売買です。では、実際に売買を行う際に、いつに注文を出せばよいのでしょうか。また、エントリー注文の形態として、主に、「成り行き」「指値」「逆指値」の3種類が存在しますが、それぞれの違いや使い方とは、どのようなものなのでしょうか。

利益を上げるトレーダーたちは、自分の戦略や戦術に合わせて、意味のある、より有利な売買方法を決めています。しかし、初心者の投資家は、わけも分からず、見よう見まねで我流の売買を繰り返します。これでは、利益が上がるわけがありません。自分の戦略や戦術を決めて、その上で最適な売買方法を知り、実践することが必要なのです。

◆自分自身を知る

「自分自身を知る」と言うと哲学的に聞こえるかもしれませんが、株式投資においても非常に重要です。なぜなら、売買を行うのは他ならぬあなた自身だからです。価格変動の分析に、ファンダメンタル分析を採用するのか、テクニカル分析を採用するのか、決めるのはあなたです。同じように、売買注文を出すときに、「成り行き」で注文するのか、「指値」で注文するのかを決めるのもあなたです。そして、あなたが決めた行動により、利益が上がるか、損をするかが決まります。つまり、あなたの決断と行動が、結果を導き出すのです。このことに気付くと、株式投資を行うにあたり、自分自身の行動や決断、気持ちの変化など、「あなた自身を知らなければならぬ」ということが理解できるのではないのでしょうか。

第 1 章 株式投資に対して無知だから失敗する

1-3 無知を解消することで何が変わるのか？

市場に関して、売買行動に関して、自分自身に関して知ること、何が変わるのでしょうか。無知を解消することは、知識を少しずつ蓄え、積み重ねていくことです。知識の蓄積は視野を広げ、さまざまなものに対する理解を広げます。株式市場で日々繰り返されている現象や語られていること、飛び交っている情報などの意味や重要性、効果が見えてきます。そして、利益を上げている人とそうでない人の違い、各種の投資手法や理論のメリットやデメリットが分かってきます。

知識の蓄積は、あるところでは自分の投資手法や理論に対する信頼や確信、利益への可能性の裏付けなど、あなたの力になっていきます。無知な状況では毎日の行動や思考が不安定で迷いが多かったものが、無知を解消することで、株式投資で成功するために必要な手順を知り、自分の状態を知り、日々の行動を自らの意思で決めていけるようになり、迷いが少なくなります。

無知は弱く傷つきやすい状態ですが、知識を積み重ねていくことで、強くなり、投資家として成長していきます。無知を解消することとは、さまざまなものごとを明らかにしていく、明らかなものを増やしていくことを意味します。それは、株式投資で失敗する理由を明らかにし、同時に株式投資で成功する理由も明らかにしていくことにつながります。

無知なままでは、株式投資で利益を上げることなどできません。あなたが利益を上げるに十分な知識を蓄え、行動を続けていくとき、初めて株式投資で利益を上げられるのです。

無知を解消し、知識を蓄え、株式投資の成功に向かって歩き出しましょう。

ビビるから失敗する

2-1 なぜ投資家のメンタルが大切なのか？

投資において、メンタルが大切か、技術が大切か、という議論がよく交わされます。しかし、それには議論の余地はありません。なぜなら、技術を使いこなすのは投資家という人であり、人が何らかの行動を起こすときには必ず心理的な影響があるからです。つまり、技術を大切にするためにも、メンタルを無視することはできないのです。

私は、過去10年以上にわたり、数千人もの投資家の質問や悩みに答え、また自分自身でも投資を続ける中で、紛れもなく、投資においてはメンタルが大切であると認識しました。その理由は、「私たちは、お金というものを命の次、あるいは命と同等に大切なものとして考えており、投資家はお金の増減に常に身をさらしているから」です。

投資とは、直接的にお金を増やしたり減らしたりする行為です。そのお金は、多くの人にとって命の次に、あるいは命と同等に大切なものです。それだけ大切にしているものが常に増えたり減ったりすれば、私たちの心は自ずと揺れ動くでしょう。心の揺れは、時に欲として、時に恐怖として、私たちの心を支配します。そうなったとき、私たちの心は、私たち自身をある決まった行動へと駆り立てるのです。これが、投資家にとってメンタルが大切な理由です。

第2章 ビビるから失敗する

次に、具体的に投資を始めたときに起こる心の動きと行動が、いかに投資に対して理に適っていないかをご説明します。

投資家が売買を行うと、次の瞬間から利益や損失を生みます。短い期間のうち、利益も損失も小さい額なので、それほど問題にはなりません。利益も損失も、少額であればそれほど心を動かさないので。しかし、2日、3日と時間を経過すると、利益も損失も徐々に大きくなり始めます。この時点で心が揺れ動き始めます。利益が上がっている場合には、「利益を失いたくない」という感情が起こります。そして、損失を被っているときには、「何とか損失を回復させたい、取り戻したい」という気持ちになるのです。

これらの心の動きにより、投資家は2つの行動を取ります。

- ①利益が上がっている取引の決済を行う（利益を手に入れる）
- ②損失を被っている取引の決済は行わず、先送りにする（俗に「塩漬け」と呼ばれる行為）

この行動は、あなたの取引口座の中に、評価上の損失、いわゆる「含み損」の取引だけが残され蓄積されていく、という状況を生みます。その中には、運よく損失を回復する取引もあります。しかし、すべての取引の損失が回避することなど不可能です。損失に対処する方法を知らず、ただ損失を避けるためだけの先送りの行動を続けることで、含み損が拡大し、いつしか資金面・精神面で耐えられなくなり、損失が拡大した状況で決済を迫られます。これが、初心者の個人投資家が損失を拡大させ、市場から撤退していくメカニズムです。だからこそ、投資家は自分の心の動きを知り、感情のままに行動しないことが重要なのです。

第2章 ビビるから失敗する

2-2 平常心を保つことで何が起るのか？

前節で、売買が始まった瞬間から自己資金が増減するために心が揺れ、その心が投資家を破綻の行動へ導くメカニズムだということを紹介しました。しかしながら、「資金管理」「価格変動」「売買手法」を知ること、一定以上の有利な条件で取引ができ、それらが投資理論や投資技術として確立されていることも事実です。つまり、理に適った投資方法が存在するのです。

理に適った行動をするには、平常心を保ち、冷静でなくてはなりません。逆に言えば、冷静に行動することができれば、取引を有利に運べるポイントがあるということです。つまり、平常心を保つことで株式投資の成功確率は高くなるのです。

投資理論の1つに、「資金管理」があります。この後で詳しくご紹介していきますが、簡単に言うと、1回の損失を自分の投資資金に対して安全な範囲に限定し、決済する考え方です。この考え方に従い行動すると、自分の投資資金が安全に保たれることになります。自分の資金が安全であれば、それほど心が揺れ動くことはないので、次の売買に対して冷静に有利な投資手法でアプローチできます。

十分な知識と技術を手に入れ、常に落ち着いた心で売買を行えるようになったとき、その投資家は限りなく成功へと近づいているのです。

2-3 平常心を保つために行うこと

2-2節では、平常心を保ち有利な売買を続けることで成功する確率が高くなるとご紹介しました。しかし、投資を行えば投資資金は多少なりとも増減するので、厳密な意味では心を動かさないこと

第2章 ビビるから失敗する

は不可能と言えるでしょう。ここでは、平常心を保ち、自分が有利な売買を続けていくために必要なことを述べます。

投資家の心を最も動かすものは資金の増減なので、この点に目を向けましょう。まず心が動揺しないように、適切な売買の株数や株式の購入代金を決めます。これは、「資金管理」という考え方です（詳しくは、後の節で紹介します）。投資家は大きく儲けたいという気持ちが強いため、どうしても投下資金が大きくなりがちです。投下資金を大きくした分だけ心も大きく動揺しますので、かえってマイナスの結果を生むことが多いのです。まずは、動揺せず損失を抑えるために、1回の売買当たりの売買株数や購入金額を小さくすることから始めましょう。

しかし、単に売買株数や購入金額を小さくして資金管理を行ったとしても、利益を上げることができなければ意味がありません。そのために、より有利な売買手法、より有利な投資理論を学び、身に付けていく必要があります。将来の価格変動の方向性に対して資金を投じるという投資の性質上、どんなに有利な売買手法・投資理論であったとしても、100%の未来は予測できません。

どんなに優れた売買手法・投資理論であったとしても、損をしてしまう時間帯や取引は必ず存在します。そのとき、同じ売買手法や投資理論を続けていくことに不安や疑いを覚えると、それを続けられなくなります。不安や疑いを拭うだけの確信や自信があれば、その時間帯を乗り越えて利益を上げることにチャレンジできます。

あなたが、ある売買手法や投資理論の表面的な部分を学ぶだけでは、自信を持ってそれを続けていくことは不可能です。真の意味で売買手法や投資理論を身に付け実践していくためには、あなた自身のたゆまぬ行動が必要です。具体的には、本を何度も読み、DVDを何度も見返し、実際のチャートの中で確認し、目の前の価格の動

第2章 ビビるから失敗する

きでシミュレーションを行い、自分の頭と手を使い、行動を続けることです。あなたが行動した分だけ、あなたはその売買手法や投資理論に対して自信を持つことができます。そのとき初めて、疑いや不安は薄れ、心を乱すことなく行動を続けられるようになるのです。

平常心を保つには自信と信頼が必要で、それを裏付ける努力が不可欠です。あなたは今、株式投資を学んでいます。自分の投資スタイルを確信できるまで高いレベルに引き上げてください。あなたのその行動は、将来の利益へとつながっていくのです。

お金の減ると思っていないから失敗する

3-1 何も知らずにお金が増えるはずがない！

株式投資を始める投資家は、「お金が減る」という可能性を少しも感じていません。不思議なことに、株を買うだけでお金が増えると思っっています。「投資にはリスクがある」と言われても、なぜか自分のお金が減るとは思っていないのです。あるいは、具体的な感覚として、ピンときていないのです。

日経平均株価は、特に大きい動きではなくても、1日に1%くらいの変動を見せます。もし、株式の購入に1,000万円の資金を投入すれば、1日に10万円以上の資金が変動することになります。1日に10万円ですので、4～5日たてば、40万～50万円の資金が変動することになります。これはごく小さい値動きのケースですので、暴騰や暴落といった局面では、この数倍も値が動く可能性があります。たったの数日で、数十万円からひどい場合には数百万円のお金が動けば、経験の浅い人は正常ではいられなくなります。

利益が伸びているときは、単に気分がよく、有頂天になるだけでよいのですが、一旦損失が膨らみ始めると、生活が真っ暗になり、いつも株価のことが気になり、仕事も手につかなくなります。株を始める段階で、具体的に「お金が減る可能性がある」ということを理解した上で、損失でお金が減ったとしても、それを上回る利益を上げられるように努力していく。そう覚悟して、株式投資を始める

第3章 お金が減ると思っていないから失敗する

ことこそ大切なのです。

「投資において最も大切なものは、資金管理だ」。これは、成功したトレーダーや投資家の共通した認識です。投資は、資金を増やすことを目的とした行為なので、損をなるべく少なくすることが大前提となります。投資は結果がすべてです。その過程でどんな素晴らしい実績を上げたとしても、結果として資金を失い、破綻してしまえば、何の意味もないのです。

では、具体的な資金管理について考えてみましょう。

資金管理に対する私の定義は、

「将来的に、どんな事態が起きても自分の投資資金を安全に保ち、次の行動を起こせる状態を確保する」

というものです。

将来的な事態を想定しますので100%の保証を求めることは不可能ですが、常に資金全体に目を配り、管理するという心構えが必要です。管理とは「コントロール」のことなので、自分の意思において資金を左右できることを意味します。これに対し、自分の意思で資金を左右できなければ、それは管理=コントロールではなくなってしまう。資金管理を考える上では、「自分の意思で資金をコントロールできる」という状態を確保することも大切なのです。

あなたが明日の朝目覚めたときに、自分の投資資金が1,000万円失われていたとします。あなたがその損失に対し、自らの意思で決済や維持の選択を行うことができる状態であれば、それは資金管理が行われていたことを意味します。しかし、自らの意思で判断できる状態でない人は、資金管理が行われていたとは言えません。

第3章 お金が減ると思っていないから失敗する

資金管理と聞くと、損切りの実践や金額、投資資金に対する比率などを思い浮かべる人も多いと思いますが、大切なことは自分の資金が自分の管理＝コントロールの下にあることです。これが、資金管理の本質です。

あなたが常に安全な状態で投資を続けられる状態を確保する。このことを第一に、あなたの資金管理を始めてください。資金が管理され、維持され、次の投資が開始できるからこそ、利益への道がつながっていくのです。

3-2 資金管理とはどのように行うのか？

資金管理は、投資資金を安全に保つことです。そのためには、将来的な資金の動きを想定しておく必要があります。株式投資において避けることのできない最も大きいリスクは、株式を購入した会社が倒産し、株式の価値がなくなってしまうことです。倒産が決まって、すぐに株式の価値がゼロになるわけではありませんが、破産や会社更生法、民事再生などの適用が決まれば、株式の売り注文が殺到し、株価は急落を起こし大きい損失を被ってしまいます。株式投資を行う以上、このリスクが常に付きまといまいます。近年では、エルピーダメモリや日本航空、随分前にはライブドアなど、巨大な企業が倒産し、多くの株主が損害を被るケースもありました。「大手企業だから」「株価がこの水準なら」と甘く考えず、常にこのリスクを忘れることなく、資金管理を行う必要があります。倒産による株価下落から資金の減少を防ぐための資金管理は、分散投資です。1つの銘柄に対する投資資金を、常に資金全体の10%以下に設定するような分散投資を行えば、最悪の事態が起こったとしても、資産の90%以上は守られることになります。

第3章 お金が減ると思っていないから失敗する

同じ意味において、より厳格な資金管理とは、将来的に起こる資金変動を想定し、株式の購入代金や損失金額を管理していく手法です。例えば、松下株式会社という会社の株を、株価500円のときに1,000株購入したとします（購入代金は50万円です）。この株が、1日平均で10円変動したとすると、あなたの投資資金は1日に±1万円変動することになります。何かインパクトの大きいニュースが飛び込んできて、1日に50円動けば、5万円の資金が変動することになります。このように、銘柄ごとの資金変動を想定し、個別と全体で管理すれば、あなたは投資資金全体を管理できることになるのです。

資金管理とは、具体的に起こる資金の変動の可能性をあらかじめ予測し、その事態に備えて行動することです。例えば、上記の松下株式会社の例においては、「売買を行わない」や「100株買う」といったような選択肢で、より厳しい資金管理を行うことができます。前者は資金の変動の可能性はゼロとなり、後者は1日平均1,000円の資金変動を許容することになります。これが資金管理のスタートです。

資金管理の次のステップは、1回の売買当たりの損失額、および損切りのポイントを決めておくことです。投資における売買は、感覚的に行うのではなく、より有利な条件を判断した上で行うものです。しかし、事前に有利だと判断しても、実際は自分の売買が不利な状態に陥ったときには何らかの決断を下す必要に迫られます。その決断のポイントが、「損切り」と呼ばれる撤退のポイントです（一度状態を整理して、気持ちを切り替えて、次のチャンスに臨みます）。このポイントを決めることで、損失を限定し資金を安全に保つことができるようになるのです。

損切りポイントは、ただ単に損失を決済するだけではダメです。

第3章 お金が減ると思っていないから失敗する

撤退を決断するに値する十分な理由が必要です。その理由は、投資家自身の投資スタンスや戦略・戦術によって変わってきます。また、損切りポイントを決めたとしても、実際に損切りを行ったときにいくらの損失が計上されるかは、売買を行うサイズ（売買株数）によっても異なってくるので、その点も併せて考慮する必要があります。資金管理に必要なポイントを整理します。

- ① 資金の変動の可能性を知り、管理すること
- ② 損切りポイントを決定すること
- ③ 1回の損切り当たりの損失額（投資資金に対する比率）を決めること
- ④ 2の損切りポイントにおいて、損切りを行ったときに、3で決めた損失額（投資資金に対する比率）の範囲内に収まるように売買サイズを決定すること

これらはいずれも、あなたの投資スタンスや、戦略・戦術が決まっ
ていてこそ、明確になるものです。資金管理もあなたの投資スタン
スの決定から始まるのです。

3-3 資金管理で投資が変わる

資金管理を始めると、あなたは安全な状態で投資を続けていられ
るようになります。また、1回の売買当たりの損失額（投資資金に
対する比率）が決まるので、これまでの漠然とした損失への恐怖感
が、具体的な金額としての限られた恐怖感に変わります。資金管理
こそが、第2章でご紹介した「投資家の平常心を維持すること」に
直結する要素と言えます。

第3章 お金が減ると思っていないから失敗する

資金が管理できていないと、霧の中を歩くように不安定です。しかし、資金管理を行うことで利益への可能性が見えてきます。1回の損失を限定し、小さく抑え、次の売買への態勢や気持ちを整えることで、建設的・計画的に利益へのアプローチが続けられるのです。資金管理は、投資の管理そのものなのです。

多くの個人投資家は、資金が増えてほしいという希望を持つものの、具体的にどうしたら資金が増えるか分からず、いざ始めてみると不安や迷いばかりで日常生活にも混乱をきたしてしまいます。結局、投資などやらなければよかったという後悔ばかりが残ってしまうことも少なくありません。これは、現在の日本の投資環境に、資金管理という意識や考え、具体的な方法などが浸透していないことが原因と言えるでしょう。

また、資金管理とは、ある部分で我慢することを意味しています。早く大きく儲けたい、楽に儲けたいという気持ちを我慢し、ゆっくり時間をかけて投資に関する理論や技術を学び、小さい金額での売買から始めます。その意味では、「最初に学ぶ」ことも資金管理に入ってきます。時間をかけて勉強し、慎重に売買を始めれば、資金は安全に保たれます。時間をかけて学び、自分が身に付けたもので、自分の分かる範囲で、まずは小さく試す。その積み重ねの中で、実際に利益が積み上げられていくからこそ、少しずつ売買サイズを大きくし、投入資金を増やしていける。そうやって慎重に、堅実に、無茶をすることなく売買を続けていけば、資金を破綻させることなどないはずなのです。

資金を破綻させてしまうのには、理由があります。それは、いつしか気が大きくなり、慎重さを忘れ、大きく儲けたいという意識だけにとらわれ、そして気付かないうちに道を外し、自分がコントロールできない資金の中に身を置いてしまうからです。資金は、自分で

第 3 章 お金が減ると思っていないから失敗する

管理するものです。同じ意味で、投資も自分で管理するものです。あなたの投資が崩壊し、資金が失われているとすれば、それはあなたが資金管理を行っていないということになります。自らの投資資金を常に安全なレベルに保ち管理する、これこそが資金管理の原点と理解し、必ず自分で資金管理を行い、利益への道を進んでください。

なぜ値が動いたのかが 分からないから失敗する

4-1 値動きとは何か？

値動きとは、株価の動きです。それは、常に上昇と下落を繰り返しています。しかし、その値動きには一定の性質や法則、理由があります。しかし、多くの個人投資家は、それを学ぼうとするのではなく、単に方向性を予想し、当てようとします。未来のことを、理由もなく予想することなどできません。もしそれが株式投資であれば、それは投資ではなく、バクチです。

値動きとは、「上昇」か「下落」です。しかし単純に思える値動きは、非常に複雑なのです。例えば、「日経平均株価が100円上昇した」と言うのは単純です。しかし、30分で100円上昇することと、1週間たって100円上昇することでは、まったく意味が異なります。同様に、30分後に100円上昇したとして、途中でどの程度の下落があったのかによっても、まったく事情は異なります。それが1週間後の上昇であれば、なおさらです。つまり、多くの投資家は値動きに関して、2点の価格の間にある直線的な動きを想像しますが、そこには時間という要素と、無数に存在する価格の連続（流れ）という要素が、複雑に絡んでいるのです。値動きとは、時間の変化とともに、絶えず上下動を続ける価格の動きのことなのです。

多くの個人投資家は、値動きを、直線的に捉えてしまいます。ところが、実際に投資を始めると、それが直線的ではないことに気付

第4章 なぜ値が動いたのかが分からないから失敗する

きます。さらに時間の経過という、考えもしなかった要素が絡んでくることで混乱します。そして判断を誤り、失敗するのです。値動きの性質や特徴、パターンを知ることは、時間の経過とともに多様に変化する価格の動きに対する対応の準備となるのです。

株式投資で利益を上げるには、値動きの理由を知る必要があります。そして、値動きの性質や特徴を利用する必要があります。値動きとは何かを知り、その性質や特徴を学び、利用して、利益へ結び付けていきましょう。

4-2 値動きの理由を学ぶ

株式市場における値動きは、単純に見れば、「上昇」と「下落」の2つに分かれます。この2つの値動きは、どのような理由で形成されるのでしょうか。市場において価格の上昇は、供給に対して需要が多い場合に形成されます。逆に価格の下落は、需要に対して供給が多い場合に形成されます。これが、値動きの根本的な理由です。

しかし、実はこの先に、値動きを複雑にするもう1つの理由があります。それは、投資家が、「なぜその株を欲しいと思うのか」という理由です。この理由はいろいろと考えられ、取引を行う人によって違います。1株当たりの利益が増えると予想して株を欲しいという人もいれば、単純に割安だと判断し、株を欲しいと思う人もいます。将来的な会社の成長に期待したり、テクニカル的な理由から株を欲しいという人もいます。

つまり、値動きには2段階の理由があります。

- ① 需要と供給のバランス
- ② 需要と供給に影響を及ぼすさまざまな要因

第4章 なぜ値が動いたのかが分からないから失敗する

多くの投資家は、この2段階の要因を1つのものとして混同して捉えているので、混乱が生じてしまうのです。値動きの理由は、シンプルに理解しなければなりません。それは、

- ①株を欲しいと思うのか、要らないと思うのか
- ②欲しいと思う理由、要らないと思う理由は何か

です。

ある銘柄の株を欲しいと思う人が多ければ、その銘柄の株価は上がります。その株を要らないと思う人が多ければ、価格は下がります。そしてそれぞれの理由は、無数に存在します。その理由が無数に存在する以上、すべてを知り、分析しようとするには無理があります。だからこそ、投資家は自分が判断するに足る材料を選ぶ必要があります。

すべての理由を知り、判断を下すことは不可能です。自分が利益を上げるために十分な理由を選択していきましょう。その意味において、チャートは有効です。なぜなら、そこには値動きの事実が表されているからです。ある期間に株価が上昇していれば、その現象は、その期間において、その株を欲しいと思った人が多いことを意味します。逆に下落していれば、その株を要らないと思った人が多いことを意味します。その事実のパターンや性質、特徴を知っていくことがテクニカル分析です。過去の事実を確率統計的に分析し、何らかの有利なポイントを見出すことができれば、売買の判断に十分な材料を手にすることができます。値動きの理由を知り、その利用方法を考えていきましょう。

第4章 なぜ値が動いたのかが分からないから失敗する

4-3 値動きの理由を利益に結び付ける

4-2節で紹介したように、値動きには2段階の理由があります。その2つの理由は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析として、その性質や特徴を知る「定性的な分析」と、値動きに対する時期・値位置・値幅などを知る「定量的な分析」が可能になります。ファンダメンタル分析においては、定量的な分析は困難であり、定性的な分析が主となります。つまり、ファンダメンタル分析を利用し、知ることができるのは、大局的な方向性です。それに対して、テクニカル分析では方向性の認識とともに、定量的にタイミングや値幅を分析していくことができます。その両方の性質と特徴を知れば、効果的に売買を行い、利益の確率を高めていくことが可能になります。

ファンダメンタル分析とは、値動きに影響を及ぼす基礎的な要因を分析し、値動きの方向性を捉えていく分析手法です。「株式の価値は、その会社が将来にわたって生み出すすべての価値を現在価値に換算したものである」。この定義に沿うと、株価が上昇するためには、その会社が将来生み出す利益が増加する必要がある、これは1株利益として評価することができます。最も単純なファンダメンタル分析とは、今の時点から比較して、将来その会社が1株当たりの利益をどれだけ増加させるかを分析することであると言えます。しかしながら、その会社が生み出す利益は、四半期ごとの決算発表のタイミングでしか確認することはできず、それゆえさまざまな財務指標や将来見通し、その他の数字や展望を考慮し、分析することが必要となり、その精度をどこまで高めることができるかは不透明です。また、上記の株価の定義を考えれば、ごく短期間の株価の変動は、ファンダメンタル要素から根拠を求めるには無理があり、こ

第4章 なぜ値が動いたのかが分からないから失敗する

の点では単純な需給関係に、その根拠を求めざるを得ません。

テクニカル分析とは、過去の値動きを継時的なデータとして各種の確率統計的な分析を行うことにより、値動きの中に存在する一定のパターンや性質を見出し、利用していく分析です。その分析の根底には、「値動きを形成するものが投資家の心理であり、投資家の心理は、ある特定の条件下において、特徴的な偏りを見せる」という揺らぎのない事実があります。例えば、「トレンド」とは、一方向性の値動きが続く現象ですが、どんな市場や銘柄においてもトレンドは確認され、それは驚くほど偏った値動きを形成します。多くの場合、トレンド形成には、ファンダメンタル要因が根底をなしています。しかし、ファンダメンタル分析では、価格の大局的な方向性を予測することはできても、実際のタイミングや値位置・値幅などを特定していくことは難しいので、その点においてテクニカル分析が非常に有効になるのです。

ファンダメンタル分析・テクニカル分析ともに多くの手法や考え方があり、そのすべてを知り、使いこなすことなど不可能です。それゆえ、自分が利益を上げるに十分な分析手法を学び、利用していくことが必要で、そうすることで、利益の確率が上がるのです。大切なことは、あなたが理由をもって売買を行い、その結果として利益を積み上げていくことです。

地合いが分からないから 失敗する

5-1 地合いとは何か、どう変わっていくのか？

第4章で、株価の動きには、需給とそれに影響を与える要素の2つが関連していると紹介しました。一般的に、「株価は景気がよいときに上がる」という印象があります。しかしながら歴史的な株価の動きをチャートで確認すると、底値圏から上昇が始まった時間帯は、決して景気がよくなっていたわけではないことに気がきます。例えば、2012年11月中旬に民主党の野田内閣が解散・総選挙を発表し、株価は上昇を開始しました。この時点で、国内景気がよくなったわけではなく、「政権交代が起こり、経済政策が見直され、景気がよくなるのではないか」という期待感から株式市場に買いが入ったと考えられます。その後、実際に円安の影響もあり、企業業績が改善し、いわゆる景気がよくなり始め、さらに株価が上昇するという循環をたどりました。

株式市場で言われる地合いとは、市場にあふれるムードや値動きそのものと言えます。一般的には、景気＝地合いと考えてしまいそうですが、上にも書いたように、底値圏からの上昇局面では決して景気がよくなっているわけではないと考えると、地合い＝景気ではなく、地合い＝株価の動きであり、株価の動きはチャートを見ることで、一目で分かります。

個人投資家は、地合いがよい環境で有利に株を買いたいと願って

第5章 地合いが分からないから失敗する

いますが、地合い=景気と誤って理解しているため、本当の地合いが見えず、チャンスを逃しています。株価が上昇を始めれば、それは何らかの理由で需要が供給を上回る現象の確認であり、これは地合いが上向いていることを意味するのです。

逆に、景気が好調な中で株価が下落を見せていれば、それは供給が需要を上回っていることを意味し、地合いは悪いと考えられます。株式投資で利益を上げるために、地合いについて先入観や固定観念で判断するのではなく、適切に判断できるようになる必要があるのです。

長い株価の歴史の中で、地合いがどのように変わっていくのかを大きく考えてみます。株価とは、企業の利益の増減に伴い動きます。マクロ経済の大きな流れの中で、その国のGDPが増加し、経済成長を遂げている間は株価が上昇する傾向にあります。上昇する株価は、投資家の利益を拡大し、市場および市場参加者は活況の中で売買を拡大させ、実態からかけ離れた価値も形成されるようになります。そのような市場の熱さとは関係なく、永久に続く成長など存在しませんので、いつしか国や企業は成長を止め、衰退を始める時期がやってきます。それまでに市場の過熱により、実態からかけ離れて形成されてきた価値は、その裏付けを失い、株価の急落を招きます。そしてさらなる衰退で株価は下落を続け、いつしか天井圏で起こったこととまったく逆のことが底値圏で起こり、行き過ぎた絶望感の中で割安感を形成し、上昇を始め、再び経済や企業の成長が始まる循環が存在します。これが、株式市場に繰り返される地合いです。

5-2 投資スタンスに合った地合いを見極める

前節で紹介した地合いは、マクロ経済化における長く大きい株価

第5章 地合いが分からないから失敗する

の動きと言えます。しかし、株価の上下動には、その期間や値幅にかかわらず、同じ心理が働いています。つまり、投資家の期待による買い=上昇と、投資家の失望や満足による売り=下落です。この上昇と下落の動きが無数に繰り返されて、株価の上下道を常に形作っています。チャートを見れば、その動きは一目瞭然であり、短い1分足から長い月足まで、さまざまな規模での上下動を確認できます。

株式市場に参加する投資家は、それらの無数に存在する上下動の中で、効果的に上昇局面で株式を購入し、買い値よりも高い値位置で決済し、利益を上げることが目標としています。株式の投資家は、その時々地合いがどういうものであるかを理解し、自分がどのような地合いを利用して利益を上げるかを知る必要があるのです。1分足には1分足の地合いがあり、月足には月足の地合いが存在します。短期から長期まで、さまざまな地合いが存在する中で、株式投資で利益を上げていくためには、自分が乗ろうとする地合い=自分の投資スタンスに合った地合いを見極める必要があるのです。

株式投資家は、「地合いを知りたい」と言います。しかし、地合いとは、一言で「良い」or「悪い」、あるいは「上」or「下」と言い表せるものではなく、過去のあるAという時点から見れば地合いは良いが、直近のBの時点からは悪いというように、視点が変わると、地合いそのものは変わるのです。これを考えると、株式投資家は、「地合いを知りたい」と言うのではなく、「自分のスタンスでの地合いを知りたい」と考えるべきなのです。これこそが、勝てる投資家と勝てない投資家の地合いの差なのです。

第5章 地合いが分からないから失敗する

5-3 地合いが良いときに買い、地合いが悪いときには買わない

自分の投資スタンスに合わせた地合いを認識できるようになれば、ここから先に行くことは単純になります。地合いが良いときに買い（新規買いエントリーや買い保有の維持）、地合いが悪いときには買わない（買っていた株の決済や新しい買いを手控える）ということを繰り返していきます。

行動は単純なのですが、その行動を導き出す根拠が間違っていれば、行動は間違ったものになってしまうのです。株式投資の現場で、過去から現在において多くの個人投資家が苦勞し、勝てず、損失を拡大していくのは、ここに原因があるのです。あなたの投資スタンスを決めてください。それが決まって初めて、それに合わせた地合いを認識でき始め、技術や手法を磨けるようになるのです。

株式投資家は、株式投資で成功するために、「上がる銘柄の見極め＝銘柄選択」が最も大切だと思い、この情報や手法を手に入れようと躍起になっています。しかし、数千銘柄以上の購入対象銘柄の中から、将来的に暴上げしていくような銘柄を予測しようとするには限界があることが理解できると思います。それよりもむしろ、今、自分にとって、特定の銘柄の地合いが良いか、悪いかを見極めることの方がはるかに簡単で単純です。「上がる銘柄を探す」という意識から、「良い地合いを見極める」という意識に、少しだけ比重を移してください。そうすれば、肩の力が抜け、株式投資に余裕が生まれ、あなたのパフォーマンスが向上することでしょう。

売買の方法が 分からないから失敗する

6-1 投資の行動は誰も教えてくれない

あなたが実際に株取引を開始したとします。あなたは、取引会社の会員ページや取引ソフトにログインし、注文を出そうとします。しかし、このときに困るのです。「どうやって注文を出せば、利益に結び付くだろうか……」

前述したように、株式投資で利益を上げていくには、より有利な環境、より有利なポイントで売買を進める必要があります。それは、発注の方法や時間、売買サイズ（取引量）の決定などにおいても同様です。しかし、投資の世界にあって、売買行動（方法）に関する情報は皆無と言えます。このことは誰も教えてくれません。だからこそ、いつまでたっても、無益で無駄な売買を繰り返し、損をしてしまうのです。売買行動（方法）は、一般的に「トレードルール」と呼ばれます。私が考える一般的なトレードルールを、次の図2に示します。

トレードを開始するには、銘柄とタイミングを選ぶ必要があります。それが最初の、環境認識・銘柄選定のルールです。銘柄が決まれば、エントリー（取引の開始）を決める必要があります、その時点で同時にサイズ（売買量）と損切りポイントを決める必要があります。エントリーが終われば、損失のときの撤退ポイントはすでに決めてありますので、最後に必要なものは、利益に結び付いたときの決済

第6章 売買の方法が分からないから失敗する

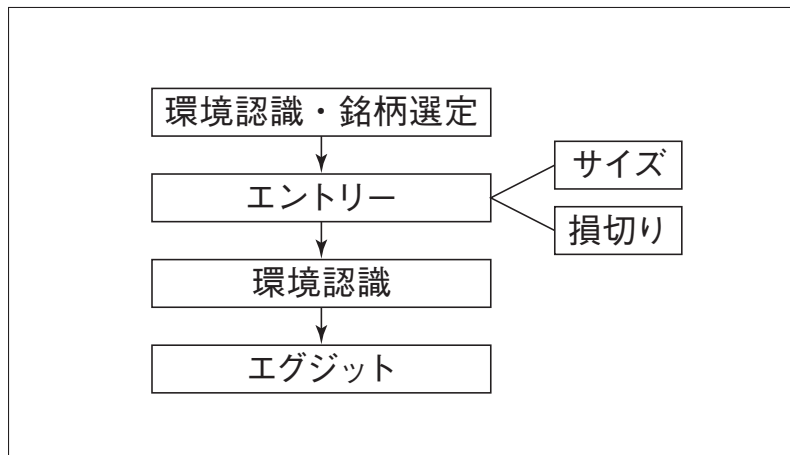


図2 トレードルールのイメージ

ポイント＝利食いのポイントです。それを決める上で、環境認識が必要な場合があり、最後に決済＝エグジットを決めます。この流れにおいて、1回の売買がようやく完結することになります。これを行うための条件や方法を決めることを、「トレードルールを作る」と言います。

利益を上げ続ける投資家やトレーダーは、必ずトレードルールを決めて、実行しています。そして、このトレードルールの中で、ファンダメンタル分析やテクニカル分析、各種の投資手法や理論を活用していくのです。株式投資で利益を上げるということは、その場しのぎの感覚や感情で売買を繰り返すことなく、事前に勝つ可能性の高い行動基準を決めて実行することなのです。

勝つための売買行動（方法）を知り、学び、自分のトレードルールとして確立し、利益に結び付けていくのです。

6-2 行動できなければ利益は上げられない

各種の分析手法や理論を学び、何らかのトレードルールを確立で

第6章 売買の方法が分からないから失敗する

きたとしましょう。これで、あなたが利益を得る確率は高くなりました。しかし、考えてほしいことがあります。それは、「行動することができなければ、利益は上げられない」ということです。

株式投資は将来の値動きに対して、資金を投じていく行為です。それが将来的な値動きに左右される性質である以上、その結果が保証されることはありません。つまり、儲かるか、儲からないか分からない中で、あなたは行動を続けなければならないのです。このことは、想像以上に困難なことです。

トレードルールとは、あくまでも確率的な要素を加味した、希望や期待に基づいた行動基準です。しかし、その行動基準があるからといって、自分の大切な資金をリスクにさらすことができるかというと、これはまったく別問題になります。ましてや、株式投資の売買が確率で成り立っている以上、必ず損失にも遭遇します。そのときにあなたは、行動を続けることをためらいます。これは、第2章の「投資家のメンタル」で紹介した通りです。

トレードで利益を上げていくためには、トレードルールが必要です。しかし、トレードルールがあるからという理由で儲かるわけではないのです。トレードルールは、行動を続けてこそ、利益に近づいていくものです。そこには、あなたの意思や感情の力が働きます。あなたがトレードルールを守り続けることを放棄すれば、次の瞬間から利益の可能性はなくなるのです。

トレードルールは、あなたに利益を保証してくれるものではありません。より高い確率で利益を上げられるよう、常に高い精度を目指して、トレードルールを精査し続けることが必要です。しかし、どこまでいっても100%という確率は存在しないので、行動を続けるか、それとも止めるか、という判断は、いつもあなたに委ねられています。前述したように、利益を上げるか、損をするかは、あな

第6章 売買の方法が分からないから失敗する

たの判断や行動にかかっているのです。

失敗する多くの個人投資家は、失敗の理由を、投資の手法や理論、分析のせいにする事が多く、自分が原因で失敗したという認識を持つ人はほとんどいません。しかし、投資の手法や理論を選び、分析を頼りにし、それらを判断材料として行動したのは自分自身のはずです。そうであるならば、すべての失敗の理由が手法や理論、分析のせいだというのは、あまりにも的外れです。

株式投資で勝つには、そのための行動規範（トレードルール）を作り上げる必要がありますが、作っただけでは、決して十分ではありません。トレードルールに従い行動していくのは、あなた自身です。利益を上げるために行動を続け、常に自分の状態を確認しながら進んで行きましょう。

6-3 トレードルールを知り、自分の売買手法を確立する

利益を上げる売買行動には、一定の考え方があり、それがトレードルールとして投資の世界で確立され、実践されていることを紹介してきました。これを知り、あなたは、自分でも利益が上げられるトレードルールを知りたい、手に入れたと思うでしょう。投資の世界においては、誰もが儲かるトレードルールというものはありません。それは、「魔法の方法」や「聖杯」と呼ばれ、存在しないものに例えられます。

なぜ誰もが儲かるトレードルールが存在しないのかと言えば、あなたももう気付いていると思いますが、そのルールを使い行動する投資家が気ままな行動に走るからなのです。

投資とは、続けていくことで利益を積み重ねていく行為です。

第6章 売買の方法が分からないから失敗する

そして、利益を生む行動を続けていくには、感情のコントロールが重要になってきます。誰かが利益を上げたルールという理由だけで、あなたがこれを使って儲かる保証はありません。そしてその先の行動と結果はあなた自身の手で作っていくものなのです。そのことを考えて、自分のためのルール作りを始める必要があります。

あなたがトレードを続けていくのに、最も大切なポイントをご紹介します。

それは、「自分が好きなトレードルールで投資を行う」ということです。人間のモチベーションは、「好き」とか「楽しい」という気持ちによって持続します。逆に「嫌い」とか「苦しい、つらい」という気持ちでは長続きしません。投資の世界では、このことを重視する人があまりにも少ない。多くの投資家は、「儲かる」ことだけを優先させているために、長続きしないのです。「楽をして儲かる」などというトレードルールや手法、理論などありません。いずれのルールや手法、理論にも、つらく苦しい時期は必ず訪れます。それを乗り越えて、トレードルール・手法・理論を使っていくには、それが好きで楽しいことが不可欠なのです。それを使っていけば、利益を上げることができるといふ信頼・希望を持つことが未来につながるのです。

あなたが、これから株式投資で利益を上げ続けていくには、そのようなトレードルールを確立する必要があります。そのためには、自分の好きなトレードスタイル、自分が望んでいるトレードスタイルを知り、形にしていくのです。自分が本当に望んでいる、自分に合った、大好きなトレード手法に出会い、トレードルールとして確立してください。それが、成功への本当のスタートであり、ゴールなのです。

株を買う日はこの日！

7-1 トレードルールを決めれば、株を買う日は決まる！

第6章で、自分が好きなトレードスタイルで、勝つ可能性の高い行動基準を決める、それがトレードルールだとはご紹介しました。このトレードルールを決めれば、株式投資は単純な作業に変わります。トレードルールにおいて、自分の行動基準が決まっているので、毎日の値動き（終値が一般的です）で、行動基準を満たすかどうか、確認を行い、行動基準を満たせば実行します。

例えば、「直前にある安値は過去6か月間の最安値であることを確認し、その後の上昇で、終値が10日移動平均線を上回ったら買う」というルールを決めていれば、最安値をチェックし、終値と移動平均線の位置関係をチェックし、全部が満たされれば、翌日の始値で成り行き買いスタートです。

このように、株式投資とは自分が勝つ可能性の高い行動基準＝トレードルールを決めて行うものであり、トレードルールを決めれば、株を買う日（決済する日）は、ピンポイントで「この日」と決まるのです。多くの投資家は毎日、「今日は買いかな」「明日は上がるのかな」と、株式投資で悩んでいます。そんなことは不毛で、効率的ではありません。「株を買う日を知りたい」と願う人は「急がば回れ」で、まずトレードルールを作りましょう。

第 7 章 株を買う日はこの日!

7-2 買う日が決まれば、毎日の作業は待つこと

7-1 節で、トレードルールを決めれば、「株を買う日」は決まると紹介しました。株の売買を行う日は、ある一定の基準を満たした日になりますので、その日以外にすることは何也不会ありません。株式投資とは、「確認して待つ」ことの繰り返しのなすです。その様子は、「待つ」「待つ」「待つ」そして「待つ」。株式投資とは、売買のチャンスを待つ行為です。トレードルールを決めたら、確認作業を行いながら、チャンスが来るのを待ちましょう。

7-3 株式投資は先の長い道のり

あなたは、株式投資においてどれくらいの利益を上げたいと願っているでしょうか。1億円でしょうか、5億円? それとも10億円?あるいは、1年の利回りとして20%でしょうか。いずれにしても大きい目標を持っていることと思います。考えていただきたいのですが、目標である1億円の利益は、何回の売買の先に実現できるでしょうか。あるいは、年利20%の利益を達成できたときに、1年間で株式投資をやめてしまいますか?

1億円の利益を1回の売買で達成することは、まずできないでしょう。しかし、年利20%を上げることができれば、2年目も投資を行った方が、より資金を増やせる可能性があることは容易に分かります。つまり、株式投資は利益を上げられる状態を作れば、長く継続すればするほど大きい利益を享受できるのです。

市場環境は、歴史や経済の流れの中で時々刻々と変化しているように見えます。しかし、株式市場や株式投資の本質的な部分は、何も変わりません。それは、私が投資を始めた13年前から、まった

第 7 章 株を買う日はこの日！

く同じと言っても過言ではありません。つまり、株式投資を本質的な部分で理解し、利益を上げられる状態になれば、それを生涯にわたって使っていくことは可能です。あなたは株式投資家として、市場から長く利益を上げていくことが可能なのです。

それを考えると、株式投資家への道は長い道のりになります。長く続く道のりを、健やかに大過なく進んで行くためには、その道中の作業を楽にしておく必要があります。そのためにも、トレードルールを作り、毎日の作業を簡素化しておくことには大きな意味があります。

「マイペースで、ぶれることのない行動基準を作り、作業を続けることで、将来的に自分の資産が右肩上がりに増えていく」

そんな姿を自分の投資の目標として、今から学び始めてください。私が出会い、教えてきた多くの投資家は、そんな投資家へとどんどん成長しております。そして、それは誰にでも可能なことだと思います。あなたが、自分の資産を増やすために必要なことを今から学び始め、結果として株式投資で成功することを願っています。

第 7 章 株を買う日はこの日!

【著者紹介】

松下 誠（まつした・まこと）

まこと投資スクール株式会社代表。1967年福岡県生まれ、富山医科大学卒業後、製薬会社入社。2001年2月製薬会社のMR（医薬情報担当者）時代に、株式投資と商品先物投資を開始。1年半で1,500万円の資金を失うも、諦めることなくトレードを学び続け、厳格な資金管理とトレードルールを作り上げた。以来、着実な利益を上げるトレーダーへと変貌。2005年ドリームワークス株式会社を設立。自身の経験と明快な理論に基づいた個人投資家への啓蒙を続け、直接指導した投資家は3万人以上に及ぶ。著書にFXサイクル投資法マスターブック（ダイヤモンド社刊）などがあり、ベストセラー作家でもある。

松下誠提供の投資情報サイト「インベスターズクリニック」では、毎週火曜日の無料動画解説を始め、様々な材料で投資を学び、投資力をつけることができます。

「インベスターズクリニック」はこちら！

<https://www.dreamworks.co.jp/>

なぜ投資家は失敗するのか？

2014年9月20日 初版発行

著者	松下 誠
編集・制作	AINOVA
デザイン	SKAM